

2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	寺島雅隆
最終学歴	学位	専門分野
中京大学大学院 経営学研究科 博士後期課程修了	博士	経営学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

学生に真面目に接し、信頼する。

【目標】

産業社会に有用な人材育成に寄与すると共に、学生の学力向上と健やかな学生生活を支援する。

【方針】

社会科学的知見と多様性に基づいて対処する

【計画（方法）】

- ・個々の学生のニーズを把握し、信頼をコミュニケーションとする。
- ・ゼミナール学生に「オンリーワン」の獲得を促す。
- ・教員と学生間、および学生間の友愛を育む授業運営を心掛ける。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

アントレプレナーシップ論、アントレプレナー精神、ビジネスモデル構築論、経営管理論、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

起業論・新規事業論、東邦プロジェクト、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

授業にゲストスピーカーを招いた。

ゲストスピーカー前期:株式会社 musbun 代表取締役 鈴木萌芽、株式会社 ASAKURA PRODUCE 浅倉隆志、Brilliant Impression 株式会社 森内真希

ゲストスピーカー後期: Diet Beauty Lab 川村武

○作成した教科書・教材

チャン ティ トウイェト ニュン, 寺島雅隆 (2025) 『日本企業の経営管理がよくわかる! 経営管理論』三恵社

○自己評価

一度も休講することなく、授業に専念することができた。来年度も体調を整え、励んでいきたい。

II 研究活動

○研究課題

障害者起業の現状分析

○目標・計画

【目標】

障害者起業と障害者雇用

【計画】

定性調査を含めてフィールド調査を行う

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・チャン ティ トウイェト ニュン, 寺島雅隆 (2025) 『日本企業の経営管理がよくわかる！ 経営管理論』 三恵社
- ・寺島雅隆 『救貧の正当性—なぜ障害者を救うのか—』 デザインエッグ社、2022年8月
- ・寺島雅隆 『障害者の経営学-雇用から起業へ』 三恵社、2022年3月（第2版）

（学術論文）

- ・寺島雅隆, チャン ティ トウイェト ニュン (2024) 「シラバス分析による「経営管理論」の経年的変化—テキストマイニングを用いた探索的研究—」 『東邦学誌』 53 (2), 1-16
- ・寺島雅隆, 鄭南 「日本残障者就業現状及相关社会政策支持研究」 『社会政策研究』 No.19(02)、pp.66-78、2020年2月（査読あり）

（学会発表）

- ・ Terashima Masataka: “Research Trends and Current Entrepreneurship in Disability Entrepreneurship: Based on literature review and field research” The 5th East Asia Village Development Forum: East Asian Experience in Integrated Rural-Urban Development、Institute of Contemporary Korean Studies, 2024.8.23(Academy of Korean Studies, Republic of Korea)
- ・寺島雅隆 「Disability Employment」 城乡文化社会转型与东亚青年发展在线研讨会、吉林大学哲学社会学院、2022年8月
- ・寺島雅隆 「ボーカロイドによる授業—言語障害者の試み—」 日本ビジネス実務学会第36回全国大会、神戸大学、2017年6月

（特許）

なし

（その他）

- ・寺島雅隆 (2025) 「書評: 『日本中小企業小史—中小企業の歩みと日本社会—』 (寺岡寛著)」 『中小企業季報』 2024 No.4 (2025.1.20 発行)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

経営哲学学会、日本ベンチャー学会、日本中小企業学会、障害学会

○自己評価

学会発表1、共著論文1、共著1、書評1であった。共著論文と共著はチャン先生との共同研究によるものであり、来年度も共同研究を進めていきたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

建学の精神に則り、真面目に業務にあたる。

【計画】

- ・与えられた職務を全うする。
- ・委員会に関連する業務を意識しておこなう。

○学内委員等

地域創造研究所運営委員会

○自己評価

委員会の会議には休むことなく、出席できた。来年度も体調を整え、励んでいきたい。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

授業を通じて地域貢献活動を模索する。

【計画】

ゲストスピーカーの方々と関わり、学生と取り組めるプロジェクトを模索する。

○学会活動等

なし

○地域連携・社会貢献等

なし

○自己評価

ゲストスピーカーを4名招くことができた。うち一人は本学卒業生であり、起業家として活躍する姿を学生に紹介できたことは良かったと感じている。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

なし

VI 総括

教育、研究、大学運営ともに滞りなくできたのではないかと考えている。特に教育は、私の成果ではないが、4年ゼミ生14名のうち4名が上場企業に就職することができた。これからも本学から社会で活躍できる人材の輩出に貢献していきたい。

以 上